文化財をたずねて⑬

《へんろ石の道標》

中島—土佐山田町へ通じる市道と県道後免領石線の交わるところ。俗にへんろ石という。

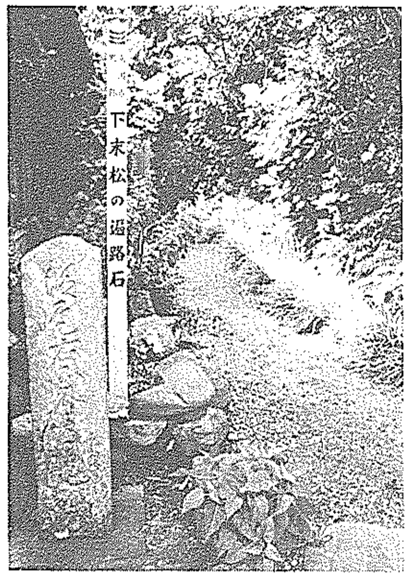
ここは長岡下末松であって、へんろ石という地名は、土地台帳にも切図にも見られない。今からおよそ二百五十年前、元文三年（一七三八）の昔、国分寺へ参拝の遍路道の道標が建ったのに始まったと言われる。

この道標は、へんろ石の十字路を西へ約二十メートル、北側の小道の傍らにある。明治二十三年ごろ後免領石線が開通するまでは、この小道が二十九番大日寺からの要道で、ここで山田道より右折するため、道標が建ったのであろう。

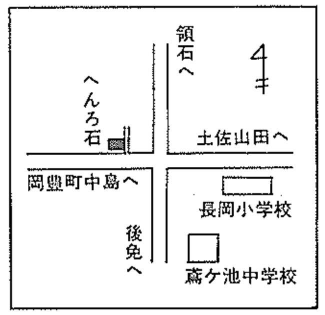
文献によれば、四国八十八カ所巡拝は、江戸時代の元禄年間のころに特に盛んになったと言われるから、その二、三十年後にこの道標が建てられたことになる。

この石柱は、二三センチ角、高さ一・四〇メートルくらいで、東面に「南無大師遍照金剛」、南面に「従是右国分寺道?」、北面に「元文三戊午年十月日」とある。たぶん付近の人々の善意の建立であろう。

以来、明治の中期まで、想像も及ばない数多くの巡拝行者のために、その使命を果たしてきた。そして人々の行き届いた手入れで、摩滅損傷も少なく大事に受け継がれ、他名にもその名を留めている。市指定の文化財である。



多くのお遍路さんが、この道を通り国分寺(写真右下)へ参拝した



チビッ子剣士がんばる！
—市少年剣道大会—

夏休みも終わりに近づいた八月二十二日、第二回南国市少年剣道大会が行われました。昨年、初めて開かれるようになったこの大会は、日頃の練習の成果を発表する場として、また剣士仲間の交流をはかろうと始められたものです。

会場となった日章小学校体育館には、暑さも吹き飛ばすような、子どもたちの元気な声が響いていました。

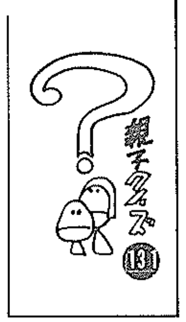
なお、成績は次のとおりです。

団体戦

一位　南国剣道教室
二位　大篠少年剣道教室
三位　長岡少年剣道教室

個人戦

◎5・6年男子……一位＝北村真人。二位＝岩下進也。三位＝古味高志。
◎4年以下男子……一位＝森岡歩。二位＝吉水賢司。三位＝古味賢二。
◎女子の部……一位＝池田佳依。二位＝高橋由美。三位＝水田理香。



ご家庭で話し合って答えてください。答えは、この広報に出ています。

■**もんだい**・今年も十月二十四日から八日間の日程で、『南国市○○○』が開かれます。
■**しめきり**・9月15日
■**おくり先**・〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市役所内　広報委員会親子クイズ係
■答えのハガキには**必ず、住所・部落名・氏名・年齢・職業**を書いてください。
■**賞品**・特賞千円＝三人、残念賞（記念品）＝五人

第130回正解者発表（応募総数59通）（敬称略）
■**こたえ**・高知—福岡便
■**特賞**・千円＝三人
石田わか（宍崎）　**山崎多江子**（下野田）　**山本かおり**（久礼田）
■**残念賞**・記念品＝五人
池添裕司（岡豊町）吉川和世（稲生）上森康幹（物部）川村德子（中央団地）田内直美（比江）

がんばってます
サークル紹介⑦

日本画サークルのみなさん

自然美を色彩豊かに
～日本画サークル（みやび会）～

婦人学級で、日本画を勉強していた婦人たちが、「もっと十分な時間をとって、じっくり絵を書きたい」と、五十六年一月に生まれたのがこのサークル。

毎月第一水曜日、西部集会所に集まり、それぞれ二～三枚の絵を持ち寄り、婦人学級で指導を願っていた前田朝子さんに細かく指導を受けています。

日本画は、まず対象物をスケッチし、画面に合うように構図を決め下絵を書きます。そして、岩絵具をにかわで溶いて、ていねいに塗っていくもので、その色合いの美しさが一番の魅力だそうです。

前田さんによると、「やはり、絵が好きでないと長続きしないようです。上手、下手は本人の努力しだいです」とのこと。

絵にむかう顔は真剣そのものですが、お口の方はなかなかにぎやかで、皆さん一カ月に一度のこの集まりが、絵の情報交換の場として、とても楽しみにしているそうです。

会員のかたの一言

○色彩がとても美しい。日本画を始めるまで、絵を書くということはありませんでした。（東崎　武市さん）

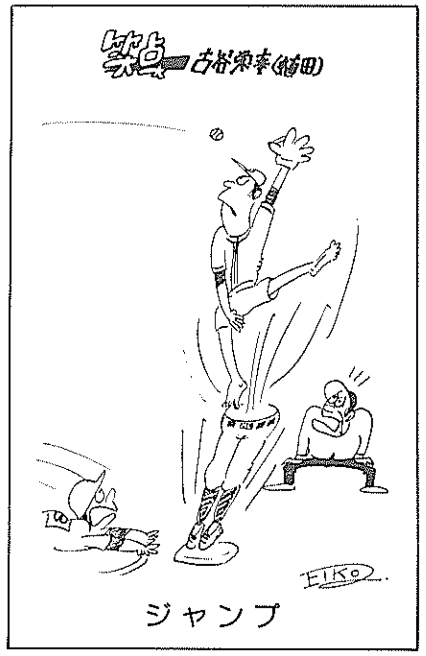
○婦人学級のときから、欠席したことはありません。（下末松　吉川さん）

○退屈しのぎから始めましたが、今は忙しく書く時間がありません。（岡豊町　川添さん）

○年齢も忘れるし、時間も忘れます。（前浜　江村さん）

○自己満足です。絵の具も高かったし、ずっと続けてゆきます。（里改田　山岡さん）

○多趣味の一つとし始めました。今は家事が忙しく、時間をぬってやっています。（稲生　中橋さん）



ジャンプ

南国歌壇

朝もやのたなびく蓮田に淡紅の宝珠型なす蕾抽きいづ　西島　**高橋佐代**

雷鳴としのつく雨は舟襲い　たちまちされば脚のなき虹　篠原　**山本　茂**

音もなくテームズ河の流れいて　ビッグ・ベンは高く空にそびゆる　大埇　**中田憲秀**

おばあちゃん死なないでと不意に幼な言う　み祖の祠浄めいるとき　岡豊町　**岩村とよき**

歴然と侵略の跡消えざるに　教科書めぐり争う人ら　後免町　**刈谷　妙**

南国柳壇

史実曲げ教科書何を教える気　後免町　**隅田俊作**

めぐり来るあの日あの時終戦日　古市　**島田稔子**

蝿追えずプロの先生批判言　十市　**武市日出志**

ふかしいもやせたいけれども二ツ三ツ　立田　**北村幸江**

南国俳壇

仕舞湯は心落ちつき虫を聞く　**松浦智恵子**（柿の実会）

熟れ色の稲田に沈む群雀　**小松千都**（〃）

土用水汲みて醤油造りいし　**溝渕なおい**（〃）

歴史はいつも暗い　遺溝に走り梅雨　**野口須磨子**（大篠俳句教室）

合歓の花揺れて　川辺に妊婦たつ　**別役敏子**（〃）

怒り地蔵語りつがれる　蝉時雨　**川田玉恵**（〃）

風鈴のチンチン鳴って廻り道　**岡田昌子**（花椿俳句会）

桐の花旅の蒼天追いきれず　**福井英子**（〃）

遠蝉や藍染を着し母がいる　**楠瀬秀子**（〃）